

『美馬市医師会 在宅医療啓発のためのフォーラム2017in美馬東部』 10月12日午後6時30分から8時45分まで 穴吹農村環境改善センターで開催しました

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が住み慣れた地域でさまざまな支援を受けながら、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるような地域づくりが求められています。そこで住民と在宅医療を支える関係者が、地域の状況と課題を共有し、それぞれがこの地域における在宅医療を考える機会としました。

118名が参加しました。地元で在宅医療に関わっている医師2名、ご家族の介護と看取りの体験談、行政の立場から医療と介護の連携に関する発表がありました。



総合司会は尾方歯科医



加美美馬市副市長のご挨拶



開会挨拶及び座長
谷口美馬市医師会長

脇役ではなく主役になって地域医療に取り組んで欲しい

アンケートから抜粋



基調講演「思いがある人が集う地域医療の拠点として」
美馬市国民健康保険 木屋平診療所 藤原 真治所長

「思いがあれば集い、それぞれが強みを活かして連携しながら関わる」の先生のことば。「患者さんの生活を見る、地域のつながり、協力がいかに大切か」というお話がとても印象的

知らない事がたくさんあり、わかりやすく説明してくれてよかった。お話の切り口がとてもユニークで興味深い内容であった。



「自宅での療養者を診療して」
佐藤内科 佐藤 一樹院長

在宅での介護・看取りには、ご本人、ご家族の強い想いと関係者の信頼関係があってこそ不安なく介護ができると痛感した。

「沢山の人に支えてもらった。仕事を越えた人と人とのつながりを感じた」この言葉はとても重いものだった。」

kono



「妻キミちゃんとの12年間のあゆみ」(ご家族)
美馬市協町 猪岡 武夫様

美馬市の高齢者の動向、傾向や推移が理解できた。



「美馬市の認知症施策における医療と介護の連携」美馬市地域包括支援センター 佐藤里美

会場で出席者からご質問(質問用紙)がありました。全ての方のご質問にお答えできませんでした。

<木屋平診療所 藤原所長へ>

(質問1)講演ありがとうございました。その中で触れられていなかった介護との連携について教えていただければ幸いです。介護に関しての実態はいかがでしょうか？ 市職員がいますか？ 民間業者がおりますか？ どのような方がその役割を担っておられますか？

(回答)

木屋平地域では、社会福祉協議会が運営する事業所にてデイサービスと訪問介護、配食サービスなどが行われています。かつては村職員がその事業所で勤務していましたが、現在はそうした人事はありません。他に民間の事業所はありません。その事業所と木屋平診療所とは車で10分少々距離です。デイサービス利用者の状態については日常的に電話で気軽にやり取りが行われており、必要であれば利用者を診療所に連れてきてもらったり、こちらから往診したりしています。訪問リハビリテーションのニーズも高く、これは脇町にある民間の事業所からサービスをご提供頂いています。こちら、スタッフの皆さまには気軽に診療所へお立ち寄り頂いています。

(質問2)薬剤師との報告等はメールでのやりとりをしているとのことですが、美馬市医師会では医療と介護の連携に「ICT」での情報共有を高めようと考えています。木屋平で活用することは可能でしょうか。お伺いします。

(回答)木屋平でも効果的に活用したいと考えています。ただ、現状では接続環境の整備に工夫が必要です。これまでは、個々のスタッフが電話などにて気軽にコミュニケーションを取り合う中で、全体として良好に連携している状況が作られてきました。ICTの活用にて連携の質を一層高めることを見込まれれば、環境整備を大きく進めることができると考えています。

<佐藤内科 佐藤院長へ>

(質問1)施設では看取りをしています。看取りの入居様の往診頻度の質問です。突発的な場合を除き、週1回の往診がベストでしょうか。週2回でもOKでしょうか。(1日、3~4回のバイタルチェック(SPO₂を含む)しています)

(回答)通院が困難な患者で状態が安定している場合は月に1回の訪問診療でも可。心不全、腎不全、担癌、老衰などの患者は体調の変化を早めに発見する必要があるため週1回往診しています。訪問回数制限週3回の縛りがない癌末期の患者は、患家の要望に応じて毎日往診することもあれば朝夕になることもあります。しかしながら、算定目当てに無駄な往診をしないこと、患者の希望時にはできるだけ応じてあげることが基本としています。

＜ご家族 猪岡 竹尾様へ＞

(質問1) 奥様への深い愛情が胸をうたれました。長い介護で、悩みとか身体的疲れ等があったと思うのですが、どのような悩みがあったのか、そしてどのように解決したのでしょうか。

(回答) 退院当時は、週2回のリハビリに通院の際の車への乗り降りをさせることと、入浴が大変でした。家での入浴の時には、近くに住む次男夫婦に介助をしてもらっていましたが、その後、デイサービスのことを知り、その中に入浴も含まれていたことが特に助かりました。

(質問2) 在宅で奥様は介護を受けるにあたり、担当のケアマネージャーが関わり、ケアプランを作成していったと思いますが、ケアマネージャーに一番望んだ事はどのような事だったのでしょうか。また、何が一番心強いと感じたのでしょうか。

(回答) まず何よりも、我が家で夫婦2人で終の棲み家として一生を終えることが目標でした。その上で、ケアマネージャーさんに対して一番心強く感じましたことは、結果として上記しました思いとは異なりますが、再早私ひとりの力ではどうすることも出来なくなり、ケアマネージャーさんに、介護施設に入所出来るよう手配していただいたことです。

＜美馬市地域包括支援センター 佐藤主幹へ＞

(質問1) いきいき百歳体操は、認知症の方がどの様に行かれているのでしょうか？ 交通手段を知りたいです。

(回答) 現在、モデル地区として実施しているので、地域の住民の方が自発的に集まっています。このことがひいては認知症予防に繋がると考えています。